

陳情第 3 号

都立立川高校定時制を存続させるよう、意見書を東京都及び東京都教育委員会に提出することを求める陳情

1 受理年月日 平成28年2月9日

2 陳情者 八王子市打越町665

都立立川高校（定時制）同窓会 芙蓉会

代表 吉田 道郎

3 陳情の要旨

東京都教育委員会は、昨年11月26日の定例会で「都立高校改革推進計画」案が指摘する事由に沿って以下の通り反対理由を列記いたします。

これによると現在ある小山台、雪谷、江北高校と並んで、立川高校（定時制）が廃校とされる予定になっており、本校はもとより、中学卒業者の進学機会が狭められ立川市内のみでなく三多摩地域の関係者は大きな衝撃を受けます。立川高校（定時制）は全日制の立川高校に伍して、78年間の歴史の中で、立川市をはじめ周辺自治体の産業、地方行政、文化、学術、教育などの広い分野で人材を送り出してきました。これは困難な条件で学ぶ生徒を励ましてこられた学校の長いご努力のお蔭であると考え、同窓会として表題の陳情をお願いするものです。

記

4 陳情の理由

1 近年、夜間定時制に学ぶ生徒を取り巻く環境、条件は変化しています。昼間の雇用が不安定になり、学習を妨げる要因も増大しています。また家庭の崩壊、本人の病気により、下の学年への転編入も増え、高齢の家族の介護、自営業の働き手としての期待もあります。また、外国人の受け容れや少人数ながら常にある高齢者の学習希望にも本校は門戸を開いています。

2 都立立川高校は、永い歴史の中で全日制と定時制は大きなトラブルもなく併存してきました。講堂や体育館、クラブ活動の各部室などは全・定共用です。定期試験や体育会、文化祭、クラブ活動の東京都大会など、お互いに譲り合ってきました。5時ルールも弾力的に運営してきました。今日的な新たな問題が発生したとしても、昼夜間双方の関係者の努力と譲り合いで乗り切れるものです。

3 立川市は、多摩都市モノレールが南北を貫き交通の要衝であり、駅の南口から数分のところに立川高校はあり、勤務と通学の両立が容易であることから立川北部、八王子、武蔵村山、東大和市からも多数が進学しています。本校が、他の地域

に移転することや他の形態の学校、チャレンジスクール等に変わるならば、多くの通学の機会を奪われてしまいます。